

「上場小学校の建築踊り・棒踊り・鎌手踊り伝承活動の取組」

1 学校名

湧水町立上場小学校

2 学年・人数

全学年（23人）

3 発表の場

上場小学校・地区合同運動会

4 上場地区の伝統芸能

上場地区には、各地域ごとに3つの伝統芸能が存在する。

水窪地域の「建築（けんちく）踊り」、別府地域の「棒（ぼう）踊り」、佃地域の「鎌手（かまんで）踊り」である。

本校では、この3つの伝統芸能を継承するために、毎年行われる小学校・地区合同運動会で子どもたちが披露する活動を続けてきている。それぞれ3年に1度披露される伝統芸能を地域の方々も楽しみにしているようである。

伝統芸能の練習は、学校の授業時間を活用することを基本としているが、指導者の都合等により、夕方や夜に練習することもある。指導は地域の有志の方々が当たっている。

5 各地域の伝統芸能

(1) 水窪地域の「^{けんちくおど}建築踊り」

「建築踊り」は、木を切り倒してから、家が一軒、建つまでの動きを踊りにしている。それぞれいろいろな道具を持ち、上棟式を祝うときに踊られてきたものである。

昭和23年の上場小学校の新校舎落成式の時にも披露した。

60年前に娯楽の少ない水窪地域に娯楽がほしいということで横川方面で踊られていた踊りを取り入れたのが始まりである。



(2) 別府地域の「^{ぼうおど}棒踊り」

300年以上前、島津藩の政策により、南薩摩の川辺から移住してきた人たちが、農業振興のためにと踊りを伝えたのが始まりとのことである。それから、この地域の牧神に奉納されていた時期もある。六尺棒のみを使用する。



(3) 佃地域の「鎌かま手踊ておどり」

鎌手踊りは、二尺と五尺の鎌を持ち、農作物の収穫と豊作を祝うときに踊られていた。昔は、農家に一番大切な牛や馬を祭っていた「馬頭観音」で、毎年4月8日に踊られていた。



6 伝統芸能の継承活動に参加して

私は、今年度、教頭として上場小学校に赴任した。

赴任早々、地域の方から上場地区に3つの伝統芸能があり、それらを子どもたちが運動会で披露することを聞いた。

上場小学校は、全校児童23人の極小規模校である。地域も過疎化、高齢化が進んでいる。そのような中、地域の学校に対する期待は大きく、また地域の方々からもたくさん支えられているのが現状である。伝統芸能の継承も、各地域での保存が困難になってきた状況を鑑み、ぜひ小学校で継承して欲しいとして始まったと聞いている。

3年1サイクルで発表活動を行うため、引き継いでいくことの難しさはあるが、指導に来られる地域の有志の方々の強い思いに対し、子どもたちも精一杯練習を重ねて、地域の運動会の際により発表ができるようにと取り組んでいる。

私が生まれ育った地域にも伝統芸能が継承されており、こちらに赴任するまで直接携わっていた。自分にとっては、その伝統芸能が郷土の誇りとなっている。

上場地区の子どもたちも、やがて大人になったとき、自分の故郷にこのような伝統芸能が存在し、自分たちがそれを引き継いだということを誇りに思える日が来ることを心から願っている。